



陸中山田駅に停車中の上り列車

陸中山田駅に入線、約8年ぶりに踏切の警報音が響く



新造車両の運転台。3月23日の移管を前に、2月3日から試運転が行われていた。



JR東日本により再建された第34閉伊川橋りょうを渡る新造列車

陸中山田駅前エリア情報

陸中山田駅東側エリアに大型スーパー、商店、飲食店、銀行などが出店。駅に隣接して小中高生世代の居場所と図書館を兼ねた「山田町ふれあいセンター・はびね」が既にオープン。世代を超えた憩いの場としても親しまれている



陸中山田駅前の様子。左正面に複合店舗「オール」が見える



「はびね」館内



復興集の山田町の中心部。駅西側はまだまだ空き地が目立つ

陸中山田駅 駄菓子 ぷちかど

「子供たちがお小遣いで買物ができる場所、集まるところを作りたい」。店主の武藤さんの思いを込めて平成28年5月にオープン。駄菓子のアイテムは200種以上。値段は1個5円から。最も高いものでも1個100円。飴、ガム、チョコ、袋菓子など主力は10円～30円。



プレハブ6畳ほどの店内には駄菓子がギッシリ

☎ 090-2950-5660
📍 下閉伊郡山田町川向6-33
🕒 10:00～17:00
🚗 水曜 可



陸中山田駅からすぐ

が食糧と水を補給する為の地に投鐘。住民が厚くもてなしたとされ、平成5年からオランダとの交流が行われている。

震災時には町内事業所の約8割にあたる約400事業所が建物焼失。まさに壊滅的被害を受けた山田町だが、リアス線沿線の被災地の中では比較的早くから復興が進んでいる地域だ。駅前東側を中心に商店等も増えている。列車は陸中山田駅から釜石駅までほぼ海岸線に沿って南下。途中、美しい三陸海岸の車窓を楽しみながらの旅となる。

震災時、織笠川の河口近くにあった織笠駅は津波により流失。震災後は以前の場所が災害危険区域に指定されたため、駅そのものが北へ約1km移動。JR東日本により駅舎が新築された。周辺は宅地高台移設のために大規模造成が行われた織笠団地の入り口付近。既に周辺には多くの住宅が立ち並んでいる。



新設された「八木沢・宮古短大」の駅名標。移管日ギリギリまで工事が続く



新型車両の車内。テーブル付き(設置可)車両もある。開業に合わせ8両の新型車両が導入された



第34閉伊川橋りょうからの眺め。宮古市のシンボルでもあるラサ工業の巨大煙突が見える

駅舎を中心に復興進む山田の町 駅舎にはスタッフが常駐

約8年ぶりに宮古駅～釜石駅間を列車が走る。ほぼすべての駅舎、ホームを整備

さて、宮古駅を出発した列車は、閉伊川に架かる橋を渡る。震災時には閉伊川を越えた大津波がこの橋の大部分を流出させた。その復旧作業が震災復興の象徴ともなった橋だ。列車は宮古港のフェリーターミナルにも近い磯鶏駅を経て内陸部へ。この先には、今回の全線開通に合わせ新駅が新設された。駅名は「八木沢・宮古短大」。周辺は新興住宅街。駅舎の反対側には岩手県立宮古短期大学の校舎が見える。

しばし山間部を走る列車は、5分ほどで海岸部へ。三陸道宮古南IC脇から金浜地区へと出る。正面から左手には宮古湾の姿を見ることが出来る。津軽石駅は津波により浸水。停車中の車両も流された。駅舎はJR東日本による整備がほぼ終了。駅構内南側では、山田線をまたぎ国道45号と津軽石地区を結ぶ陸橋が建設中だ。

ここから先、陸中山田駅までは再び山中を走る。津軽石駅から約3分。弘川駅へ入線する。震災後に住宅地の整備が進む地区に誕生した駅で、名称は地区名の「弘川」に由来する。豊間根駅を出発した列車はちよつとした峠を経て約15分で陸中山田駅に到着する。

陸中山田駅は、津波に伴う大規模火災で焼失。当初はJRによる駅舎再建が予定されていたが、協議の結果、山田町が駅舎建築を担当することになった。デザイン原案は山田町職員の手によるもの。山田湾に浮かぶオランダ島ゆかりの史実を基に、オランダの風車をイメージ。駅舎内には観光協会の観光案内所、きっぷ売場が開設される予定だ。(※1643年、オランダ船「ブレスケンス号」)

三鉄リアス線 宮古駅～釜石駅情報



岩手船越駅 | いわてふなこし(山田町)

本州最東端の駅。駅舎そのものは大きな被害はなかったが、ホーム等の修繕が施されている。駅舎は震災前とほぼ変わらないたたずまい。駅構内で列車交換が可能な相対式ホーム式。



織笠駅 | おりかさ(山田町)

津波により流失。以前の場所が災害危険区域のため、北へ約1km移動。駅舎は山田湾に浮かぶオランダ島をモチーフとした屋根の形状と海の透明感をイメージしたデザイン。周辺は宅地高台移設のために大規模造成が行われた地区。



陸中山田駅 | りくちゅうやまだ(山田町)

デザイン原案は山田町職員の手によるもの。山田湾に浮かぶオランダ島ゆかりの史実を基に、オランダの風車をイメージ。駅舎内には観光協会の観光案内所、きっぷ売場が開設される予定。



豊間根駅 | とよまね(山田町)

山中にあるため津波の被害はなかったが、JR東日本によりホーム、駅舎等の整備が施されている。一帯はシイタケ栽培ならびマツタケの産地でもある。



弘川駅 | はらいがわ(宮古市)

震災後に住宅地の整備が進む弘川地区に新駅が誕生。名称は地区名の「弘川」に由来。宮古市の補助事業として三鉄が工事を受注、工事を担当した。



津軽石駅 | つがるいし(宮古市)

震災時には津波により浸水。停車中の車両も流された。駅舎はJR東日本による整備が施された。駅構内南側に、山田線をまたぎ国道45号と津軽石地区を結ぶ陸橋が架設される。列車交換が可能な相対式ホーム。